令和7年度第3回『墨田区子ども・子育て会議』　2025年11月13日(木)

こども・若者の声を聴くために

～意見聴取にあたっての考え方～

駒沢女子短期大学
古屋真

1. こども・若者の意見聴取の現状

●意見聴取の現状

・表明意欲：10～29歳の約7割（NTTデータ，2023）

・被聴取感：16～29歳の20.3%（こども家庭庁，2023）

→『こども大綱』の数値目標：70.0%（2028年度まで）

●意見聴取の在り方（こども家庭庁，2024）

・手順：企画→事前準備→意見聴取→意見反映→フィードバックの循環

・留意点：企画…対象・テーマ・安心環境・ファシリテーターの設定

※声なき声：乳幼児，不登校の子ども，障害や様々な困難を抱えた子ども，外国籍など

フィードバック…意見聴取後の検討プロセス・結果・理由の説明

・方法：対象に配慮した対面・オンライン・アンケート・SNSチャットなど

➡意見聴取するこども・若者の［対象］［テーマ］［方法］の妥当性の確認

※参考『こども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン』

2. こども・若者の意見聴取を考える視点

●生態学的システム理論（Bronfenbrenner，1979）：個人と環境の相互作用により人は発達する

・マイクロ：友だち，家庭，学校，地域

・メ　ゾ：家庭と学校の連携，学校と地域の連携など

・エクソ：親の職場の状況，教育委員会の方針，マスコミの報道など

・マクロ：国としての教育方針，イデオロギー，文化

・クロノ：環境変化，災害，時代など

➡こども・若者に求める意見の［スケール］

●子ども(学校教育内)が参画・参加した実践の整理

・組織的な意思決定にどこまで子ども(学校教育内)の意見が反映されるか？（山下，2009）

➡こども・若者が表明した意見の意思決定への［反映度］

●参加のはしご（Hart，1997）

⑧子どもが主体的に取りかかり、大人と一緒に決定する

⑦子どもが主体的に取りかかり、子どもが指揮する

⑥大人がしかけ、子どもと一緒に決定する

⑤子どもが大人から意見を求められ、情報を与えられる

④子どもは仕事を割り当てられ、情報は与えられる

③形だけの参画

②お飾り参画

①操り参画

➡こども・若者が自ら考えて行動する［主体性］

●参加の経路/道筋（Shier，2001）

⑤意思決定にかかる権限と責任が子どもに分配されている

④意思決定のプロセスに子どもが関わっている

③意思決定に子どもの意見が考慮される

②子どもが意見を表明できる

①子どもの意見を聴いている

➡こども・若者に［責任(権限)］を分配する

【引用・参考文献】

Bronfenbrenner, U. (1979). *The ecology of human development: Experiments by nature and design.* Cambridge, MA: Harvard University Press. (ブロンフェンブレナー, U. 磯貝芳郎・福富護(訳) (1996). 人間発達の生態学―発達心理学への挑戦　川島書店)

Hart, R. A. (1997). *CHILDREN'S PARTICIPATION: The Theory and Practice of Involving Young Citizens in Community Development and Environment Care.* UNICEF & Earthscan Pablication Ltd. (ハート, R. A. 木下勇・田中治彦・南博文(監修) (2000). 子どもの参画―コミュニティ作りと身近な環境ケアへの参画のための理論と実際　萌文社)

株式会社NTTデータ経営研究所 (2023). こども政策決定過程におけるこどもの意見反映プロセスの在り方に関する調査研究報告書

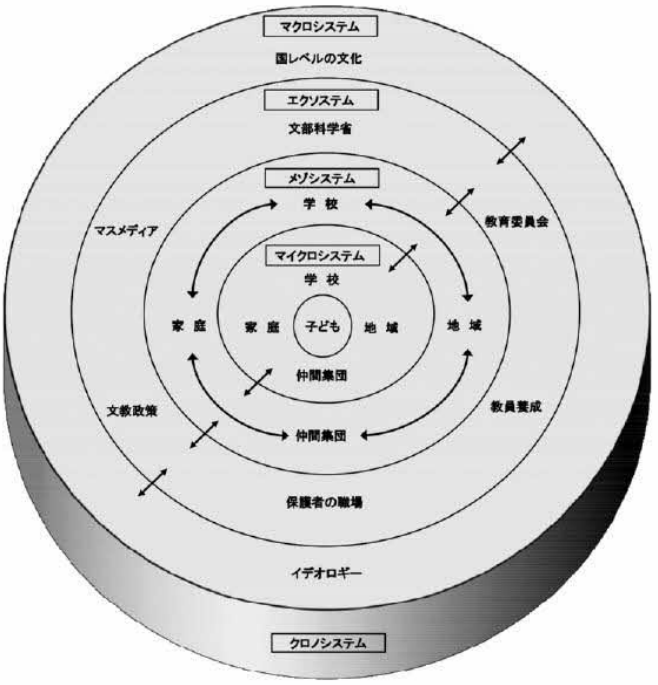
こども家庭庁 (2023). 令和5年度「こども政策の推進に関する意識調査」報告書

こども家庭庁 (2024). こども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン

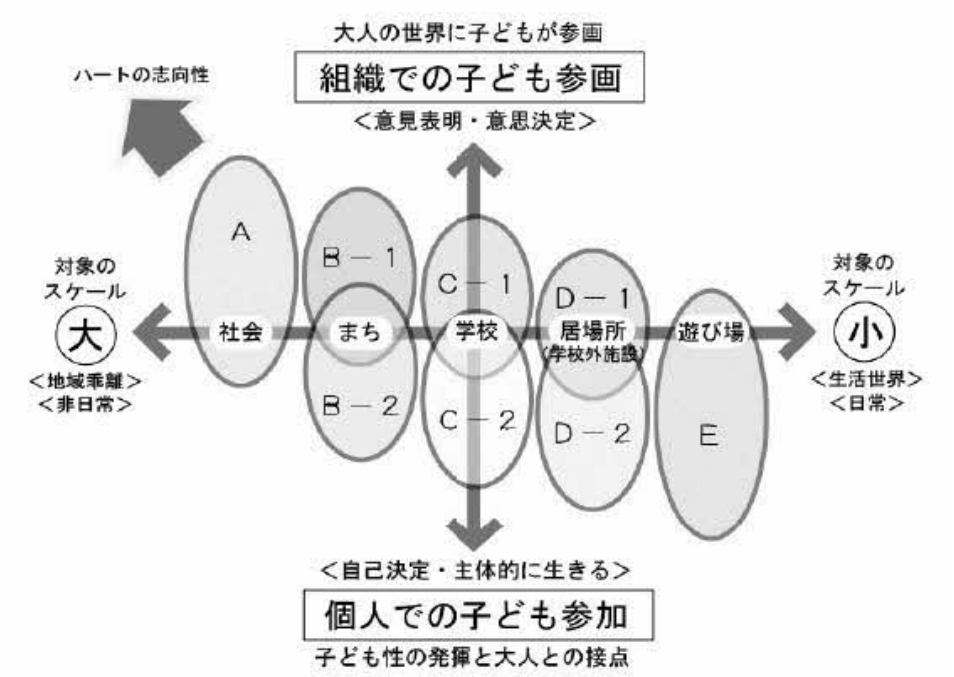
中井大介 (2016). 学校心理学に関する研究の動向と課題―生態学的システム理論から見た学校心理学―　教育心理学年報, 55, pp.133-147.

Shier, H. (2001). Pathways to Participation: Openings, Opportunities and Obligations -A New Model for Enhancing Children's Participation in Decision-making, in line with Article 12.1 of the United Nations Convention on the Rights of the Child, CHILDREN&SOCIETY, 15-2, pp.107-117.

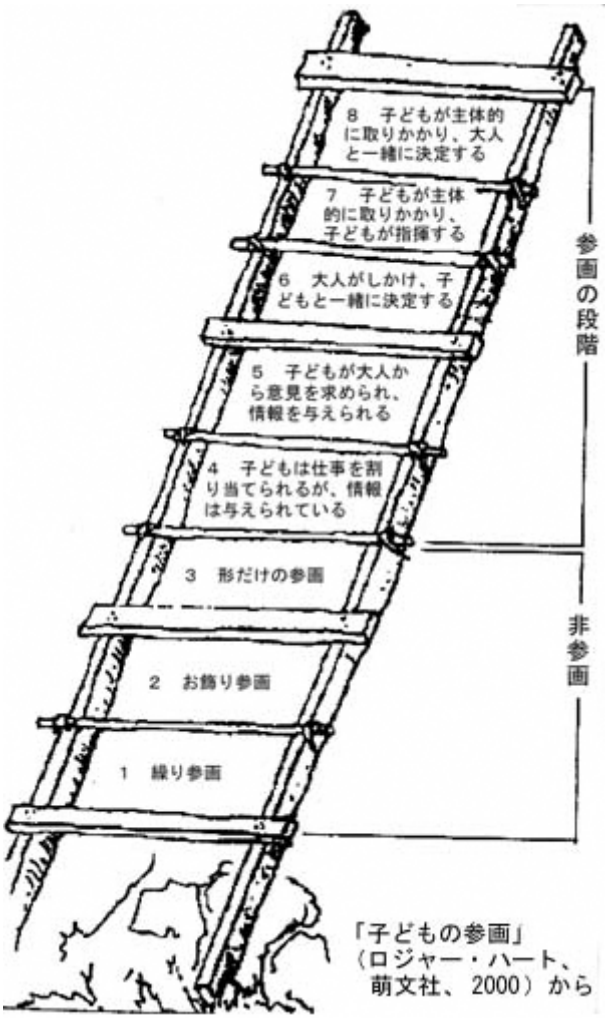
山下智也 (2009). 子どもの参加論の課題と展望：ロジャー・ハートの「子どもの参画」論を乗り越える　九州大学心理学研究, 10, pp.101-111.



生態学的システム理論 (Bronfenbrenner (1979)をもとに中井 (2016)が作成)



子どもの参画・参加実践の整理図（山下，2009）



参加のはしご（Hart（1997)をもとに木下ら（2000)が作成）